



NACSIS-ILL 参加報告

—よりよい相互貸借を目指して—

藤原 純子

I. はじめに

洛和会音羽病院図書館(以下当館)では、2008年に国立情報学研究所(以下NII)が運営する目録システム「NACSIS-CAT」と相互貸借システム「NACSIS-ILL」への参加を開始した。

相互貸借のニーズの高い病院図書館にとって、多くの大学や研究機関の図書館が参加するNACSISへの参加は、図書館員の業務効率の向上や利用者の負担軽減などの面でメリットを多く感じている。しかしながら、NACSISに参加する病院図書館は少なく、「興味はあるけれど、業務量が増えるのでは…」と尻込みしてしまっていたり、事例が少なく何となく提案しづらいのが現状ではないだろうか。そこで、当館での参加の経緯や相互貸借にかかる業務量の変化を報告し、これからの相互貸借について考えたい。

II. NACSIS 参加への背景

1. 参加へのきっかけ

(1) 利用者サービスの向上(迅速化、負担の軽減)

当館の相互貸借利用者は主に医師や看護師、看護学生であるが、複写料金や発送料金、振込手数料といった相互貸借にかかる費用は全て私費による個人負担で行っている。依頼先が銀行振込指定の場合は振込手数料が高額になってしまい、依頼先の選択にはいつも注意を払っていた。そんな中、2007年10月の郵政民営化により郵便振込手数料も値上がりし、さらに利用者への負担が大きくなってしまった。こうした利

用者の料金負担を何とか軽減できないか、と検討したのがきっかけの一つである。

(2) 大学図書館などの受付館減少、依存への疑問、将来への不安

当館は相互貸借のネットワークとして、近畿病院図書館協議会(以下、病図協)の加盟館へ主に依頼し、病図協内に複写希望雑誌の所蔵が無い場合は、大学などの図書館に複写依頼をしていた。年々大学図書館に依頼する割合が増加し、一方的に依存していることへの疑問があった。また、相互貸借を日本医学図書館協会(以下JMLA)加盟館・NACSIS加盟館のみに制限する図書館もあり、将来的にこのままの状態では病院図書館と大学図書館間の相互貸借は成り立つのだろうか、といった不安もあった。

(3) 複写依頼業務・支払手続きの効率化

複写依頼業務は、利用者からの依頼を受け取ると、まず病図協内で所蔵を確認し、無ければNACSIS Webcatや加盟館以外の大学図書館のOPACで所蔵を確認する。相手館の支払方法や受付状況を確認し、FAXや指定された方法で複写依頼を行っていた。到着後は、指定された金融機関や方法で料金を支払うが、当館は郵便局や銀行が離れており、図書館担当者が一人のため、支払手続きの際はカウンターの交代を他部署に依頼しなければならず、そのことも大きな負担となっていた。

2. 参加時期

上記のきっかけより、図書委員会など院内での検討・決裁を経て2007年11月にNACSISに申請し、2008年1月に承認された。2008年3月にシステムを追加したので、本格的な運用は3

月からとなった。

Ⅲ. NACSIS-CAT/ILL の概要と業務が改善した点

NACSIS への参加方法や概要は NII 目録所在情報サービスの Web サイト¹⁾に詳しく記載されているので、ぜひご覧いただきたい。CAT と ILL はともに参加料金は無料である。

利用にあたっては、下記の原則を守ることが上記サイトに示されている。

- (1) 目録システム、ILL システム両方の利用
- (2) 目録システムへの自館データの登録
- (3) ILL システムでの依頼・受付の実施
- (4) 目録システムの業務モードでの利用開始に先だつ講習会の受講

1. NACSIS-CAT

CAT (Cataloging system) とは、オンライン共同分担目録方式により、全国規模の図書と雑誌の総合目録データベースを形成するためのシステムである。他の図書館が作成した目録を使用することができるので、目録作業が効率化されるほか、CAT に登録されたデータが NACSIS Webcat や ILL システムにも反映される。

2. NACSIS-ILL

NACSIS-ILL (Inter Library Loan) は、NACSIS 参加館の相互貸借サービスのメッセージを電子化したサービスである。病図協の ILL では申込書を作成し、FAX で送信して文献複写依頼を行うが、NACSIS-ILL では、インターネットを用いたシステム上で依頼や受付を行う。ILL 申込書の作成や印刷、FAX 送信が不要になるほか、NACSIS-CAT のデータベースを使用するので、最新の書誌データ、所蔵データを利用して依頼先を選択でき、効率的である。

これまではⅡ-1-(3)でも紹介したように申込館の選択や依頼も一苦勞であったが、NACSIS-ILL では画面上で料金情報、発送方法、支払方法が確認できる。当館ではこれまで病院や医学系大学の図書館へ優先的に依頼をしていたが、NACSIS にはさまざまな館種の図書館が加盟しており、依頼できる図書館が増加した。また、

初めて依頼する図書館にも料金や支払方法確認のための電話連絡が不要になり、依頼業務時の気遣いも軽減されている。

また、依頼館が5館まで選択でき、謝絶されると次の候補館に自動的に依頼される仕組みになっているので、謝絶にかかる時間も短縮できる。

3. NACSIS-ILL 料金相殺サービス

NACSIS-ILL を利用して発生する文献複写料金を NII が相殺処理してくれる。ILL 依頼と受付料金を相殺した差額が NII より4半期に1度請求または振り込まれる。例えば、1月から3月の間に ILL 依頼が¥40,000 で ILL 受付が¥35,000 だった場合、相殺して¥5,000 が請求される。相殺サービスは別途申込みが必要であり、運営費として年間¥6,300 が必要である。当館では、運営費は病院が負担することとした。毎回利用者が負担していた振込手数料も不要になるため、利用者の経済的負担が軽減でき、図書館員の支払業務にかかる負担も大幅に軽減された。

Ⅳ. 当院での導入方法とシステム

NACSIS-CAT、NACSIS-ILL を利用するには、図書館システムメーカーなどが開発した通信ソフトウェアによる利用と、NII が開発した WebUIP²⁾ という通信ソフトウェアを利用する方法がある。当館では、すでに図書館システムにブレインテック株式会社の「情報館」を利用していたことから、ILL のシステムとして同社の「BT-CATP/ILL」を導入することとした。CAT については、使用頻度や導入費用面でシステムは購入せず、当面 WebUIP を利用することで NII に承認していただき、運用している。

1. 図書館システムメーカーの通信ソフトウェア

さまざまなメーカーが開発しており、図書館システムパッケージの中の一要素としての販売や ILL または CAT 通信ソフトウェア単体での販売など、機能や価格もさまざまである。NII 目録所在情報サービスの Web サイト¹⁾に各メーカーの一覧も掲載されている。

図2をご覧いただくとわかるように、NACSIS

で述べたような帳票の印刷はできないが、WebUIPの画面を上手く印刷した用紙を送付状として使用されている図書館もある。

V. NACSIS 参加後の相互貸借件数の変化

当館では、導入前の2007年度と導入後の2008年度の統計より、件数の変化はグラフのようになった。

1. 依頼件数の変化 (図3)

まず、依頼件数全体は364件から626件と大幅に増加した。当館では過去にこのような増加は無く、利用者の文献取り寄せにかかる料金が安くなったことや迅速に手に入るようになったことが理由として考えられる。NACSIS-ILLの方が依頼手続の効率が良いため、病図協加盟館への依頼が減少し、ほとんどがNACSIS加盟館への依頼となった。

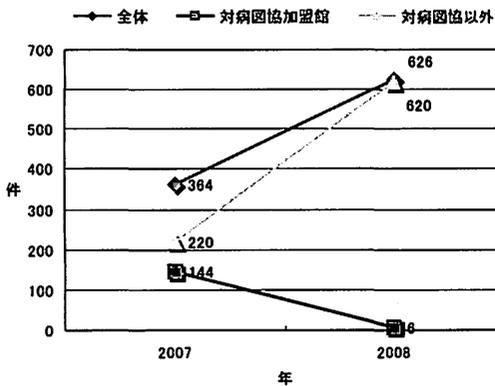


図3 依頼件数

2. 受付件数の変化 (図4)

受付件数も全体で前年より158件の増加となった。病図協の加盟館からは微増であるが、病図協以外の機関からの受付が143件の増加となった。NACSIS-ILL経由での依頼や、NACSIS Webcatを見たNACSIS加盟施設外の図書館からの依頼が増加原因である。

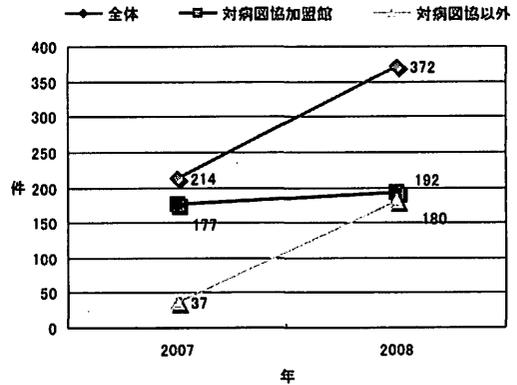


図4 受付件数

VI. 考察

依頼件数と受付件数の増加だけを見ると、ずいぶん図書館員の負担が増えたように感じるが、NACSIS-ILLの項目でも紹介したように、依頼業務が安易になり、図書館員と利用者の時間的負担を軽減することにつながった。

また、当館の相互貸借利用者は振込手数料の支払いが不要になり、経済的負担を軽減することができ、結果的にサービス向上につながっている。

これまでは依頼する一方であった大学などの図書館からも複写を受け付けるようになり、文字通りの「相互貸借」に、少しは近づくことができつつあるのではないかと考える。

VII. おわりに

病院図書館でのNACSIS-ILL参加事例として当館の例を紹介した。当館ではメリットと感じる点が多かったが、同じ病院図書館でも規模や運営の仕方も違うため、全ての病院図書館にあてはまるとは言えないだろう。例えば、当館ではKinkiWebcatとNACSISの雑誌所蔵目録の更新を行っている。相互貸借の需要が少ない場合は、目録の入力や受付件数の増加など、負担のみが増えてメリットがあまり無いかもしれない。また、当院は振込業務が軽減されたが、公費扱いの場合は変わらないかもしれない。自館の状

況をよく分析することが必要である。もし当館のように、相互貸借業務の効率化や利用者負担を軽減したい、という場合は、ぜひおすすめしたい。

最後に、NACSISに加盟しよく依頼を受ける資料は、例えば現場の看護師向けの雑誌など、病院ならではの資料が多い。また、病院紀要などは、どうしても病図協加盟館や直接病院に電話しての依頼を行うことが多い。NACSISに加盟する病院図書館が増加すれば、そういった病

院図書館蔵書をより有効に活用できるだろう。今後の相互貸借がよりよいものになることに期待したい。

参考文献

- 1) 国立情報学研究所. 目録所在情報サービス. [引用 2010-04-24].
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/>
- 2) 国立情報学研究所. WWW 対応新 CAT/ILL ゲートウェイ WebUIP の公開. [引用 2010-5-23].
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/PUB/nl2/No2/0204.htm>